

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201628		
法人名	有限会社 ミニヨンプレイス		
事業所名	グループホーム あいの里東倶楽部		
所在地	北海道札幌市北区あいの里3条7丁目5-7 (電話)011-778-6767		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月24日	評価確定日	平成22年1月12日

【情報提供票より】(平成 21年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 12月 10日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6人
職員数	9人	常勤 6人、非常勤 3人、	常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~46,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:20,000円 暖房費:8,000円(11~3月)
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350円	昼食 400円
	夕食	450円	おやつ 100円
	月額 39,000円		

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	5名	男性 2名	女性 3名
要介護1	0名	要介護2	0名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 83.6歳	最低 77歳	最高 86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いけだクリニック、みとべ歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の新興住宅地の中にある住宅改築型、定員6名のグループホームである。管理者が「お母さん」と呼ばれるなど、利用者や職員が家族のような関係で結びついている。職員の中には一級建築士や美容師、お花の先生など多彩なメンバーがおり、得意分野を活かしてサービスの向上につなげている。利用者の生活歴やできることなどを把握するアセスメントに力を入れ、本人本位の介護を実現している。地域との結び付きが深く、町内会長や地域のボランティア、小学生・中学生などが頻りにホームを訪れてくれている。外出についてもカラオケに出かけたり、小学校の学習発表会や運動会、中学校の合唱コンクールに訪問するなど活発に出かけており、地域に溶け込んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価による「取り組みを期待したい内容」については改善に取り組みたものと、引き続き取り組みが必要な項目があるので、今後とも計画的な取り組みを期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、事務局長、管理者、計画作成者が中心となって作成し、その後で職員の意見を収集し、評価に反映している。今後は、新しい職員も含めた職員全員の内容理解と作成への参加を期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、町内会長、協力病院、家族代表、利用者などが参加し、おおむね2ヶ月に1度開催されている。ホームの活動状況、利用者の健康状態、防災協力などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や運営推進会議にて家族の意見を収集している。利用者は現在5名であり、それぞれの家族に個別に対応できている。重要事項説明書に苦情処理体制を示し、札幌市や国民保険連合会等の苦情受付機関も別途知らせている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に参加し、夏祭りや地域清掃、ごみ収集場所の清掃などに参加している。隣接する小学校の学習発表会や運動会、中学校の合唱コンクールを見学に行っている。大学生や高校生の訪問もある。また、地域の歌手やピアノの先生がホームを訪れ、歌や曲を披露してくれている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム設立時に作り上げた6項目からなる理念の中に「地域の皆様に理解・支援をいただける家」という目標を掲げ、地域密着型サービスとしての理念を確立している。また、その実現のため地域との関係作りを実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関ホールや職員ロッカールームに掲げられ、職員各自のネームプレートにも添付している。職員は利用者一人ひとりを大切にすること、家族にも安心していただけることなどを意識して日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、夏祭りや地域清掃、ごみ収集場所の清掃などに参加している。隣接する小学校の学習発表会や運動会、中学校の合唱コンクールを見学に行っている。大学生や高校生の訪問もある。また、地域の歌手やピアノの先生がホームを訪問し、歌や曲を披露してくれている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、事務局長、管理者、計画作成者が中心となって作成し、その後で職員の意見を収集し、評価に反映している。前回の外部評価による「取り組みを期待したい内容」については改善に取り組めたものと、引き続き取り組みが必要な項目がある。		自己評価の作成にあたっては、新しい職員も含めた職員全員の内容理解と作成への参加を期待したい。また、外部評価の「取り組みを期待したい内容」についても計画的な取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、地域包括支援センター職員、町内会長、協力病院、家族代表、利用者などが参加し、おおむね2ヶ月に1度開催されている。ホームの活動状況、利用者の健康状態、防災協力などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で地域包括支援センター職員から情報を提供してもらうほか、区の管理者会議、グループホーム協議会に参加し行政担当者と情報交換を行っている。認知症サポーターやキャラバンメイトの養成講座にも積極的に参加している。</p>		
<b>4. 理念を实践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に利用者の様子を報告したり、写真をCDに焼いて渡している。また、ホーム便りや利用者ごとの個別のお便りをおおむね毎月作成し、家族に送付している。預かり金は明細書に税理士のチェックを受け、領収書を添えて請求書とともに家族に送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議にて家族の意見を収集している。利用者は現在5名であり、それぞれの家族に個別に対応できている。重要事項説明書に苦情処理体制を示し、札幌市や国民保険連合会等の苦情受付機関も別途知らせている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年は一時的な理由で職員の交代が3度あったが、管理者、主任が交代した職員を援護し、利用者には負担をかけることなく対応できている。交代する場合でも利用者のダメージがないよう辞めることを伝えないようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は働きながら毎日管理者から指導を受けており、外部研修を実施した際の報告会も行われている。また、介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得も奨励している。一方、新しい職員の外部研修の参加や育成プログラムの作成はまだ十分とはいえ、充実が求められる。</p>		<p>新しい職員を日々の業務で育成しながらも、介護や認知症に関する知識の取得や外部研修の参加、資格の取得など別途育成プログラムを作成して育てていく取り組みを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者及び事務局長は区の管理者会議やグループホーム協議会に参加し役員も勤めるなど、他のグループホームと交流している。職員もグループホーム協議会が開催する職員研修会に参加し、事例検討会などの場で他のグループホーム職員と交流している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に本人と家族がホームを訪問してホームの説明を聞き、十分に納得した上で利用を開始している。利用開始後はできるだけ早く馴染めるように、生活歴を参考にして好きだったことの話をしたり、園芸療法を行って馴染んでもらっている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は昔の料理の仕方やおやつの作り方、歌や戦争の話などを職員に教えてくれており、職員も積極的に話を聞くようにしている。利用者はトイレや入浴介助の時に職員に「ありがとう」というやさしい言葉をかけてくれる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>当初のアセスメントで本人の生活歴を十分に把握しており、利用開始後も毎年センター方式のアセスメントシートを職員全員で見直し作成している。生活歴や暮らし方を参考に職員が「何が食べたい」「どこに行きたい」かなど話しかけ、思いや希望を把握している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向や思い、家族からの情報を基に計画作成者が中心となり、管理者とともに生活援助計画を作成して介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族に説明してサインをもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月毎に計画作成者が中心となり、事務局長や管理者、主任が参加してカンファレンスを行い、家族の意向や本人の思いに基づき、生活援助計画の用紙を利用して計画を見直している。認知症の症状に変化が生じた時なども都度の見直しを行っている。一方、カンファレンスにおける検討内容の記録や職員の参加は十分とはいえない。</p>		<p>カンファレンス記録の充実と介護計画の書式の検討を予定しているので、その取り組みを期待したい。また、介護計画の作成時に、職員の更なる参加を期待したい。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院支援や買い物、お寺やお墓参りなど柔軟に個別支援を行っている。希望に応じて、理美容の訪問支援も行われている。利用者の家族とゆっくり話すことができる部屋も用意されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医院の月3～4回の往診や電話対応、看護師による利用者の健康状態の把握により、利用者が適切な医療を受けられる体制ができている。来訪時や電話で利用者の健康面の報告を行い、家族も安心できるように配慮している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合に備えて、事前に家族や医師と相談して医療機関を決め、病状は医師から家族に説明してもらう体制が整えられている。しかし、重度化や終末期に向けたホームの方針を文書化して、利用開始時に家族や本人に説明する体制はまだできていない。</p>		<p>重度化や終末期に向けたホームの方針について利用開始時に家族や本人と話し合い、ホームの方針を示した書類を取り交わすなど、説明体制の整備に期待したい。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>来訪者の受け付けは個人情報を考慮して職員が日誌に記入している。呼び方は、家族に了解を得て「さん」付けの愛称で呼んでいる。排泄の声かけは耳元で話しかけしたり、「手伝って」などと声をかけて他の利用者に気付かれないように配慮している。個人記録は事務所で保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の体調を考慮しながら、朝は声かけをして起きてもらうことはあるが、日々の生活では本人の意向を大切に、無理強いしないように支援している。レクリエーションは、体操や歌など利用者の意向を聞きながら行うように配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者との会話などから好きな物を把握したり、希望を聞きながら旬の食材を取り入れて、事務局長が献立を作成している。利用者の希望に応じて柔軟に献立も変更している。準備や片付けなど利用者は得意なことを手伝い、職員と会話をしながら楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は2日おきに設定して、週に2～3回楽しく入浴できるように支援している。入浴は午前中に行っているが、利用者は朝風呂ということ喜んで。季節感を出して蜜柑の皮を入れたり、入浴剤を利用することで、現在は入浴を嫌がる利用者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食事の時のテーブル拭き、洗濯物たたみなど利用者に応じて役割を持って手伝ってもらっている。花見や食事を兼ねてのカラオケ、買い物などに出かけて楽しんでいる。ちぎり絵や裁縫、畑仕事など利用者の好きなことで気晴らしができるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に考慮しながら、近くの公園や小学校に散歩に行ったり、コンビニなどへ買い物に出かけている。また季節に応じて、花見やクリスマス会、カラオケやドライブなどの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠している。玄関ドアに鈴を付けて利用者の出入りを把握している。町内会の方に声をかけて見守ってもらうことで地域全体で利用者の安全面に配慮し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>4月と12月の年間2回、利用者とともに昼夜を想定した避難訓練を行っている。今年度は、以前作成した町内会と共同の防災マップに、緊急連絡先や防災持ち出しなどの数項目加えて整備を行った。ホームの隣家には災害時の協力を依頼している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分摂取量は個別に毎日記録しており、摂取量が十分でない利用者に対しては、医師の指導のもと経腸栄養剤などを利用して補っている。事務局長が病院の勉強会に参加して献立を見直したり、3ヶ月毎に大学の先生にチェックしてもらっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>住宅改築型のグループホームで、共有空間は家庭的で落ち着いた趣がある。壁には手作りのちぎり絵カレンダーやクリスマスツリーなど、季節感が感じられるような工夫がなされている。湿度や換気、また玄関にラベンダーの香りを灯すなど精神面の安定にも配慮がなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には花の名前が付けられ、ドアや室内も家庭的な落ち着いた造りになっている。利用者が使い慣れたタンスや身の回りの品が持ち込まれ、現役で仕事をしていた頃の環境を維持するなど、利用者の生活歴を踏まえた環境作りに配慮がなされている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。